

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2024 年度・第 2 回

2024 年 12 月 5 日

学校関係者評価委員会

目次

1. 学校関係者評価	1
2. 2024 年度 第 2 回学校関係者評価委員会	1
3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者	1
4. 議事	1
5. 配布参考資料等	4
6. 委員からの評価と意見（評価点：5 点満点）	4
7. まとめ	6

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価をする。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2024 年度 第 2 回学校関係者評価委員会

- ・日 時：2024 年 12 月 5 日（金）17：00～18：00
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 306 教室

2024 年度における各学科の各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部俊一：読売理工専校友会会長
- ・堀畑尚子：放送映像学科 1 年生保護者
- ・杉田明治：文京区礪川地区町会連合会 会長
- ・羽場宏祐：株式会社インターナショナルクリエイティブ 取締役最高顧問
- ・鹿毛信一：河端建設株式会社 取締役 常務執行役員 工事統括部長
- ・小嶋 守：小嶋電工株式会社 代表取締役（欠席）
- ・伊藤大輔：医療法人社団 愛友会 伊奈病院 医療技術部 臨床工学科 係長
- ・大竹信子：社会福祉法人 恩賜財団済生会 港区立特別養護老人ホーム 港南の郷
- ・松浦正典：公益社団法人 日本測量協会 測量継続教育センター 教務部 課長

【学校側委員】（オブザーバ参加含む）

- ・藤本昌弘：理事長
- ・中村宏之：法人本部長
- ・中條 学：事務局長
- ・水落清治：校長
- ・鈴木和弘：放送映像学科長
- ・小川貴之：校長補佐兼建築系学科長
- ・栗島正晴：電気電子学科長
- ・沢田雄太：臨床工学科長
- ・曾我辰也：介護福祉学科長

4. 議事

- (1) 挨拶 藤本 理事長
- (2) 第 1 回学校関係者評価委員会の報告
- (3) 現状報告ならびに取組み事項
 - ①今年度の重点項目

以下の 2 項目を今年度の重点目標として取り組んでいる。途中経過について本日確認する。

- ・昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を 10%以下とする。
学科によっては退学者が出ていないところもあれば、前期終了時に退学する学生がいた学科もある。詳細は各学科から説明する。
- ・就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3 月末の就職内定率は 95%を超えるようにする。
別紙「就職活動状況表」は 11 月末の状況。昨年度と比較して良くない学科もある状況となっている。現在の就職活動は各学科から説明する。

②行事などの状況（前回の委員会以降分）

- ・学園祭
条件付きで飲食を可能とした。学外から 175 名（昨年 240 名）の来校者があり、特にトラブルもなく終了した。
- ・「こども建築塾」の実施
文京区在住の子供（小学生程度）を対象に、学内でこども建築塾と題したワークショップを実施。併せて、小石川図書館建替えについてのワークショップへの参加などを行っている。
- ・よさこいサークルが文京区就労支援センターの依頼を受け、文京区役所で開催されたハートフル工房の障害者施設商品販売会で、よさこい踊りなどを披露した。
- ・よみうり建築ツアーの実施
8/2、11/2 に読売新聞社の建築（有楽町よみうりホール、読売新聞東京本社）の見学会を実施。

③来年度の年間日程

- ・学園祭はここ数年金曜日と土曜日の開催であったが、来年度は土曜日と日曜日で開催予定。
- ・スポーツ大会はボウリングを行ってきたが、来年度は運動会を予定している。内容や会場を借りる問題もあるので検討中。

④学科編成

- ・「IT キャリア養成科」を設置し 2025 年度から 20 名定員で募集を開始。1 年制の IT の基礎を学ぶ学科で、留学生には日本語教育も授業内容となっている。
- ・2026 年度から放送系の 2 学科を統合し、テレビ放送だけでなく、ネット配信なども含めた全ての映像コンテンツを扱う人材を育成する「映像クリエイター学科」に再編するための授業内容などを検討している。新たにアニメの分野も取り入れて、名探偵コナンのプロデューサーに講義をお願いしている。

（4）各学科の重点項目に関する報告

①放送映像学科

- ・今年度、当学科においての退学者は 11 月 28 日現在で 3 名であり、学科全学生数に対する割合は 3.2%となっている。現状目標値は達成しているが、引き続き退学者減少に努める。具体的には予兆が見受けられる学生に対し、担任教員による面談やカウンセリングを速やかに実施し、学生一人一人が悩むことなく勉学に集中できる体制を維持する。また当該学生のみならず保護者への連絡も行い、家庭環境を把握した上で最善の策を講じる。保護者の信頼を得ることで学科への信頼度を一層向上するよう活動を継続する。

- ・2025年3月卒業予定者における11月28日現在の就職内定率は、就職希望者43名中30名が内定、進捗率70%。昨年度の同時期は、就職希望者76名中内定者36名で47%だった。求人件数は現状106件で昨年の年間累計112件と同等で推移している。今年度企業求人活動が昨年よりさらに前倒しになった為現状の内定進捗率が向上した、卒業までに就職活動中の学生らの能力を最大限に発揮できるよう個別の相談や指導を行い、全員が就職できるよう学科の就職担当教員を中心に学科全体として各企業にアプローチする。目標として100%を目指す。

②建築学科

- ・10月末時点、退学率4.3%（退学者2名）。出席不良、課題提出不良者については、適宜担任を中心に連絡、面談を行っている。出席率が80%を切る学生が数名いるため、進級・卒業に向けて担任を中心にフォローしていく。
- ・10月末時点、57.9%（就職希望者19名中11名内定）。残り8名は、インターン・面接など順次活動中。施工コースでは授業の一環としてインターンを課している。

③建築科

- ・10月末時点、退学率7.1%（退学3名、除籍1名）すべて1年生。仕事との両立が難しく登校が困難になって退学を選択する学生が多い。出席不良、課題提出不良者については、適宜担任を中心に連絡、面談を行っている。仕事などで一時的に登校が難しくなった学生については、追再試などのフォローと共に、休学を勧めるなど柔軟な対応を行っている。
- ・10月末時点、0%（就職希望者0名中）。今年度は、就職希望者なし。ほとんどが日中仕事をしている社会人であり、現在の仕事と比較検討した上で、最終的に継続勤務を選択する学生が多い。就職（転職）希望の学生については、適宜就職担当より求人を案内すると共に、担任が個別に相談に乗る体制を整えている。

④電気電子学科

- ・11月末時点で退学率0%（退学者0名、除籍0名）。2年生で出席率が2/3を切る学生が3名いる。本人と連絡を取るとともに、保護者にも連絡を取ったが、残念ながらあまり改善が見られず、卒業は困難と思われる。
- ・卒業が可能と思われる学生の11月末時点での就職率は86.7%（就職希望者15名中13名内定）。未決定の2名は就職活動中。年度末までには内定が決まるとと思われる。アドバイスができれば積極的に行い、早期の内定獲得を目指している。卒業が困難と思われる学生3名のうち1名は内定をもらっていて、2名は就職活動を行っていない状況。

⑤臨床工学科

- ・11月末時点での退学率：4.5%（退学3名、除籍0名）。（1年生：3名、2年生：0名、3年生：0名）。欠席や遅刻した学生に対して担任が電話やメールで連絡を取り、理由などを把握した上で、指導を行っている。内容によっては保護者に来校していただき、話し合いを実施することもある。成績不良者に対しては面談を実施し、授業時間外を利用して補講などを行っている。近年の学生は成績不良以外にもメンタルケアが必要な学生が散見されるため、そのような学生に対しても都度面談を実施するようにしている。
- ・11月末時点での就職内定率：22.2%（就職内定者：6名/27名）。就職活動については、できる限り早いタイミングで動く様、学生には指導を行っている。国家試験合格が難しいと予想される学生については、勉強を優先させるケースもある。（国家試験を合格しない限り、内定をもらっていたとしても病院で勤務することができないため。）就職担当教員・担任を中心に受験病院の相談や履歴書添削、模擬面接などを

実施し、早期内定を獲得できるよう学科を上げてフォローアップに努めている。企業・病院毎の就職説明会もできる限り多く実施出来る様、調整している。(善仁会グループ、上尾中央医科グループ、フィリップスなど) 就職活動のポイントなどについて、先輩技士からの話を伺える機会を設けるように調整している。(東京都臨床工学技士会と連携)

⑥介護福祉学科

- ・10月末時点、退学率0%（退学者0名）。成績不良の学生に対しては、個別補講等で引き上げに努めている。出席状況や学業について課題のある学生に対しては、保護者に連絡の上、情報共有を図り、協力いただくことで状況の改善に努めている。職業訓練生1名（体調不良で欠席が多い）には、電話連絡をはじめ試験期間の延期、実習施設との調整等で対応している。職業訓練生1名（素行不良で実習施設とトラブル）には、本人との面談をはじめ実習施設担当者との情報共有等で出来る限りのフォローをしている。
- ・10月末時点、内定率24.1%（就職希望者29名中7名内定）。昨年度同時期と比較して低いため、急ぎ担任による一斉面談を実施している。特に新卒者9名、職業訓練生7名の動きが鈍いため、面接時に就労の意思確認等を行っている。施設見学会等の参加状況を把握するため、「就職活動状況表」の提出を促している。

⑦ITエンジニア学科

- ・本年度11月末現在、健康上の理由でやむを得ない前期末の退学者が1名のみ。保護者ともしっかりと話しあい、医師からの指示も尊重して対応した。年度末に向けて出席日数や試験結果による成績不良については、補講などできる限りの対応をしていく予定。何より卒業まで辞めたくない学校を目指し、学生の満足度を向上させることを第一に取り組んでいきたい。近年は円安によって、留学生の学費納付状況が良好である。国際的な経済状況の変化によっては、大きな影響がでる可能性は大いに考えられる。その際の対応は今後の課題として考えていきたい。
- ・現在就職希望者の内定状況は順調です。IT人材に対する需要は依然として高く、今後も売り手市場となると思われる。一方で早期離職率が他業種に比べ高いと感じられる一面もあり、今年度4月入社の卒業生にも退職者が出ているもよう。できる限り希望にあった就職先に出会えるように、指導を心がけている。
留学生の就職についてもレベルを上げ、よりよい環境で働けるサポートを心がけたい。そのために、教員と企業の面談の際は、留学生への理解と情報交換を積極的に行っている。

5. 配布参考資料等

- 資料 1 第1回学校関係者評価報告書
- 資料 2 報告事項ならびに取組み事項
- 資料 3 就職状況
- 資料 4 各学科の状況

6. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

①教育活動について（評価 4.14）

- ・こども建築塾等を開催し、小さいころから建築に興味をもってもらう事が大事で非常に良い。
- ・今、学校で学んでいることが、どう仕事に役立つかということを意識できるような授業や活動がされている。
- ・学園祭やスポーツ大会、地域での活動などが行われるようになってきたのはとてもいいことだと思う。これらの活動は地域貢献だけでなく、今後社会に出てから大事であるコミュニケーションを学ぶ場となるため、これからも積極的に行って欲しいと思う。「こども建築塾」のような活動も、各学科で行えるようになるとういと思う。
- ・学校行事や地域活動にも取り組まれており、学業だけでは得られないことも工夫して実施されている。学生の自主性や意欲につながると良いと思う。
- ・来年度は、学校行事をより充実したものとすることで、学生同士のコミュニケーション促進、仲間意識が生まれることを期待している。個人の感想となるが、昨今の学生は、良く言うと「ゆずり合い」、悪く言うと「積極性に欠ける」と言った感がある。
- ・実習などはチームで行うことが多く、仲間意識と積極性がないと中々実習が進みませんし、理解も難しいと考えます。動機づけの一つとなれば良いと考える。
- ・学校行事、クラブのイベント、地元との交流等、積極的にコミュニティ活動を推進している。

②重点項目について（除籍退学率の目標を 10%以下）

- ・学園祭、スポーツ大会等を開催し学生間のコミュニケーション作りを行っていて良いと思う。また、日本人との友人を作るとさらに勉強になると思う。
- ・出席不良、成績不良等、気になる学生に対し、各学科とも面談やカウンセリングを実施していることで、目標を達成できていると思う。
- ・どの学科も専門的なことを勉強している以上、やってみたら、どうしても合わなくて退学を希望することもあると思う。
- ・除籍退学率は着実に減ってきている印象を受ける。先生方の努力で専門学校ならではの学生への細やかな配慮が身を結んでいると思う。大学との大きな違いだと思うので、これを前面に出すことで学生の獲得につなげられる材料になると思う。
- ・多種多様な生徒がおり、ひとりひとりと向き合うことは大変だと思おうが、目標達成のため学生とのコミュニケーションを密にして、引き続き係わって頂きたい。
- ・全学科において、除籍退学率が低く、目標も達成されている。学生へのフォロー、コミュニケーション、情報共有を行っている点も評価できる。
- ・一部の少人数の学科が退学率を上げているが、全体では良い。

③重点項目について（3月末の就職内定率は 98%を超える）

- ・大学生の内定が早めに決まるので、夏休み明けには就職活動を実施した方が良いと思う。
- ・入学から就職活動までの期間が短い中、1年生のうちから少しずつ就職への意識づけがされているように感じる。
- ・個別の相談にも乗って頂けることは心強い。
- ・就職率は学校を選ぶ学生、親にとって重要なところである。昨年あたりから、大学1年生や2年生からの見学希望も、少しずつ増えてきている。早めに自分の将来の仕事を見学することで、モチベーションにもなるし今後の就職にも影響してくるため、早めに積極的に動くように指導して頂けたらと思う。

- ・学科によって就職率に差がありますが、若干動きが遅いように感じた。
大学生を見ていると、はやばや就職活動を行っているようなので、はやめに活動を開始したほうが、学生自身が望む企業へ就職しやすくなるのではないかと。
- ・昨年と比較して一部学科の内定率は確かに少ないが、中間報告であり、最終的には売り手市場であるため、増加すると楽観的に見ている。
- ・就職率も学生側にとって気になるころではあるが、定着率はどうか。企業の魅力度と言ってもよい定着率だが、卒業生がそういった魅力ある企業に就職しているといった評価にもなり、学生側の判断材料にもなると考える。
- ・社会人としての第一歩はコミュニケーション力が問われる。技術的作業は入社してからで十分。

④全体評価

- ・少子化になり、留学生に頼りがちになるが、日本の学生を増すよう学校訪問等、頑張ってもらいたい。先生方の日頃の努力に頭が下がる。
- ・学校の中だけではなく、関連企業、地域の方、卒業生、保護者の評価を取り入れて、学校運営をされていることが驚きでしたが、各学科とも先生方のご指導が手厚くて安心した。
- ・コロナの時代がゆるやかになり、様々な活動が出来るようになってきたため、学校全体がすこしずつ活気づいてきたイメージがある。ITやSNSを上手く利用して専門学校の特徴を全国に配信し、学生の獲得に繋げて頂けたらと思う。
- ・就職率は学校を選ぶ学生にとって大事なものであるため、卒業生がいる企業などと連携し、目標を達成できるように努めて欲しいと思う。
- ・学生が更に増えるように高校への訪問や地域交流を行い、学校の魅力を幅広く伝えて欲しいと思う。卒業後のビジョンも含め、専門学校ならではの良さを伝えて頂けるとより分かりやすいと思った。
- ・全体的に真摯に取り組まれており評価する。
- ・各学科における留学生の内訳と対応について委員会では確認できませんが、その点についても掘り下げていただきたいと思う。
- ・学校運営に関して中期、長期事業計画を社会環境の変化に伴って推進している。

7. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

高評価をいただいた項目もあるが、ご指摘を受けた事項については、順次対応を検討しながら、今後のより良い学校、充実した授業内容にするために役立てる。

以上